



おびにしわくわく通信

NO.12

2022.4.25

文責: 荒木

広がる帯西レンジャー！

帯西レンジャーの「4つの心」は、新年度が始まって10日を過ぎ、素直な子供たちの心に浸透してきたのを感じています。そもそも帯西レンジャーの「4つの心」は、小学校の道徳で学ぶ4つの視点からきていることは、「おびにしわくわく通信2号」で説

道徳科の4つの視点と帯西小「4つの心」

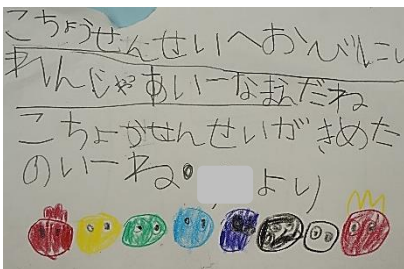
- A:主として自分自身に関すること
→帯西レッド「**自分を育てる心**」
- B:主として人との関わりに関すること
→帯西グリーン「**ともに生きる心**」
- C:主として集団や社会との関わりに関すること
→帯西イエロー「**社会をつくる心**」
- D:主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること→帯西ブルー「**命を感じる心**」

明した通りです。通常は、道徳の時間に、子供たちの道徳性を左表の4つの視点から分類整理し、道徳の内容項目を示して、指導を行っています。それを本校では日常生活の中でも道徳性を育成するために、帯西レンジャーにがんばってもらっています。



22日(金)の遠足から帰ってきた子供たちの様子を伺ってみると、ある教室の黒板に、帯西レンジャーが貼ってあり、子供たちはその下に自分のネームカードを貼っていました。これは、遠足に行ってどんな心が伸びたのかを、全員で共有しているのです。写真のように、同じ遠足でも伸びた心はそれぞれ違うのです。

今朝、正門周辺のボランティア掃除をしている高学年の子供に、「どんな心で落ち葉掃きをしているの？」と尋ねると、5年生の子供は「イエローの心です。学校をきれいにしたいからです。」と答え、6年生の子供は「レッドの心です。ボランティアをすることで、自分をもっと伸ばしたいからです。」と答えてくれました。



今日の3時間目の休み時間に、校長室の入り口を「トントン」とノックする音がしました。すると一年生の子供が左のお手紙を持って来てくれました。帯西レンジャーを一生懸命描いています。このように、帯西レンジャーは子供たちの心に浸透してきていることがわかります。

小学校は、小さな社会です。その道徳的行為の実践の場で、子供たちが帯西レンジャーと共に活躍すると、学習や行事等で学んだことの意義や自らの成長を実感するのです。その実感は、子供たちの行動のエネルギーとなり、子供自身が日常生活の改善を図るようになり、学習意欲の向上へと結び付きます。これはたくさんの研究結果からも明らかになっています。さらに、子供たちが道徳的行為を積み重ねていくことで、大人になったときの社会をよりよいものにしてくれるのです。